

<全体分析>

試験時間 105 分

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

本文の語数は、昨年は 2,290 words、今年は 2,111 words で 179 words 減少した。

出題の特徴や昨年との変更点

読解総合 2 題、その他 (会話文) 1 題、英作文 1 題の構成は昨年と同じ。

その他トピックス

- ・読解総合問題では、説明問題が 1 問、下線部和訳問題が 2 問で、昨年と同様であった。
- ・大問 I で、下線部の語句を英語で説明させる問題が出題された。2017 年まで III で出題されていた形式である。
- ・大問 IV は、昨年の社会的問題とその個人的な事例について理由を含めて書く問題から、グラフから読み取れる傾向とその理由、さらに個人的意見を述べる問題に変わった。グラフの説明が求められる問題は 2023 年まで出題されていた。
- ・自由英作文の制限語数は、大問 III が 30~40 words、大問 IV が 40~50 words と 30~40 words で、昨年から全体の分量に変化はなかった。
- ・昨年に続いて和文英訳問題は出題されなかった。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「記憶の定着における睡眠の効果」 (本文:595 words) (設問:173 words)	睡眠が私たちの記憶にどのような影響を与えるかについて論じる英文で、本文の語数は昨年の 792 語から 197 語減り、内容面でも昨年と同様、比較的読みやすい文章であった。設問数は昨年と同じ 6 問であった。1.では下線部の表す内容を、本文に基づいて英語で説明する、という問題が出題された。該当箇所を指定語数内でうまくパラフレーズできるかがポイントであった。sleep on A「Aについて一晩寝て考える」という表現が難しいが、文脈を踏まえれば読み取れただろう。2.の整序問題では、名詞として使われることが多い flag が動詞として使われており、受験生は悩んだと思われる。3.の和訳問題では、not just A but B の訳出がポイント。4.では本文中の 4 ヶ所の空所に適切な英文を補う問題が出題された。5.では本文中の 3 ヶ所の空所に適切な語を補う問題であったが、選択肢に fragile や analogous など、やや難易度の高い語が含まれ、苦勞した受験生もいただろう。6.の内容一致選択問題は、誤りの選択肢が判断しやすく、易しい問題だっ	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
II	読解総合	<p>「科学論文の量が質に与える効果」</p> <p>(本文: 699 words) (設問: 59 words)</p>	<p>たと言えるだろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下線部内容説明 (15 語以内の英語で解答) 2. 語句整序 (語群 7 個) 3. 下線部和訳 4. 空所補充 (4 ケ所, 選択肢 6 個) 5. 空所補充 (3 ケ所, 選択肢 6 個) 6. 内容一致 (選択肢 4 個から誤ったものを 1 つ選択) <p>《出典》 Coutanche, Marc N. “You’re Not Done Learning Until You Sleep.” <i>Psychology Today</i> (Online) 15 July 2025. (大学発表)</p> <p>科学論文の量がその質に与える効果について述べた文章であった。主張が一貫しており、読みやすかったものの、語の知識があるか、また、正確に文脈を捉えられているかを問う問題もあった。1.は so ~ that...を含む和訳問題で、自然な日本語に訳出する工夫が求められた。2.の説明問題については該当箇所ははっきりしていたが、字数制限が厳しく、どのようにまとめるか苦労した受験生もいただろう。3.は下線部の意味を表す適切な表現を本文中から抜き出す問題。4.の空欄補充は文脈に沿って適切な文を入れる問題だが、本文全体の主張がはっきりしていたため、解きやすかったように思われる。5.は本文中の 7 ケ所の空所に適切な語を補う問題が出題された。1つの答えに絞りにくい空所が複数あり、時間を要する問題であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下線部和訳 2. 内容説明 (30 字~40 字) 3. 下線部同意表現の抜粋 4. 空所補充 (1 ケ所, 選択肢 5 個) 5. 空所補充 (7 ケ所, 選択肢 9 個) <p>《出典》 Allison, Daid B., and Brian B. Boutwell. “The Case for Quantity in Science Publishing.” <i>American Scientist</i>, vol. 113, no. 3, May 2025, pp. 144-49. (大学発表)</p>	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
III	その他 (会話文)	「リモートワークについてのプレゼンテーションの準備」 (本文: 682 words) (設問: 251 words)	2人の日本人大学生が先生のアドバイスを受けながら、未来の働き方についてのプレゼンテーションの準備をする会話文で、選択問題が中心であった。1.はすべての選択肢が -ing 形の空所補充問題であった。昨年は1問だった誤ったものを選ぶ選択問題が、今年は2.と3.の2問になった。また、2.は口語的なイディオムの意味が問われていた。5.は「リモートワークと従来のオフィスワークのどちらを選びたいか」を昨年と同様に30~40 wordsの英語で述べる問題だった。 1. 空所補充 (5ヶ所, 選択肢8個) 2. 内容説明選択 (選択肢5個から誤ったものを1つ選択) 3. 内容一致 (選択肢5個から誤ったものを2つ選択) 4. 内容一致 (選択肢5個から2つ選択) 5. 自由英作文 (30~40 words)	標準
IV	英作文	「親と子が一緒に寝ることについての国別割合のグラフ」 (本文: 135 words)	親と子が一緒に寝ることについての国別割合のグラフを読み取り、1.ではグラフから読み取れる傾向とそれに対する理由を述べること、2.では一緒に寝ることの長所または短所を説明することが求められた。 1. 自由英作文 (40~50 words) 2. 自由英作文 (30~40 words)	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 読解総合問題では、論旨展開の把握を問う問題の出題が続いている。このような問題に対処するためには、論旨展開や文章の構成に留意して読み進める練習が必要である。また内容説明問題に関しては、必要な情報を制限字数内でまとめる力を養成する必要がある。演習には北海道大、東北大、筑波大、大阪大などの長文問題が利用できる。
2. 会話文読解で出題される自由英作文対策としては、東北大の問題が利用できる。
3. 自由英作文については、グラフ・表などの読み取りを前提とした問題に加えて、昨年出題されたような意見表明型の問題も練習しておこう。